

第193回中央委員会決定

戦後・被爆80年、なにより暮らし・平和、ジェンダー平等を 選挙と仲間ふやして自民党政治を終わらせ、全国大会の成功へ

1、石破政権の行きつまり、 行動する女性たち

真価問題や物価対策の無策への怒りのなか、昨秋の総選挙で自民・公明の与党が過半数割れとなった国会へ、女性・市民が切実な声をあげ行動し、高額療養費改善を凍結させました。石破首相自らの商品券配布問題で、金権まみれの自民党政治の行きつまりと、破壊が明らかになっていま

石破自公政権は「高校授業料無償化」と引き換えに4兆円の医療費削減



選択的夫婦別姓制度実現へ、生の声で迫る！

を維新と合意し、過去最大の軍事費8・7兆円と暮らした破壊の予算を成立させようとしています。復興の進まない能登半島被災地、極端な気候の變動による豪雪や山林火災、農水産物の異変、介護施設や病院のない自治体の増加、公共交通や下水道などインフラ整備を放置したままです。原発の「最大活用」へと大転換し、労働基準法の改善までねらっています。これらは、企業・団

体を動かす政治をめぐり、財界・大企業優先、新自由主義の自民党政治が招いたものです。さらに、戦前回帰への軍事支出が際立っています。トランプ米政権の対中国戦略のもと、軍事費GDP比3%の要求に屈服し、沖縄・南西諸島や西日本をはじめ全国各地の自衛隊基地の強化や多国間軍事演習など、戦争準備へ突き進んでいます。これらと一体し、サイバー法案を日本学術会議法入法案を強行しようとしています。

イスラエルによるガザ破壊、ロシアのウクライナ侵略が止まず、軍事対軍事で核使用の危険が高まるなか、日本被団協のノーベル平和賞受賞は日本と世界を励まし、核抑止依存をやめ、日本政府に核兵器禁止条約参加を迫っています。国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)の日本政府への全面的勧告も、軍事化とともに強まる女性の権利へのバックラッシュ(逆流)やミンジニー(女性蔑視・嫌悪)攻撃をはねかえす力となるものです。

新婦人は、総選挙後ただちに次世代国会行動や

地元からの国会議員要請で選択的夫婦別姓制度の実現を迫り、「大軍拡よりも暮らし」と通常国会に予算要求署名40万6686人分を提出しました。米不足、高騰に農民連と行動し、備蓄米の放出やフードバンク・子ども食堂への無償提供の拡大、2026年から小学校給食無償化の見込みへと国を動かかし、また、学校給食費の値上げ中止、学校統廃合見直しや産科当直体制の予算化など、貴重な成果も生まれています。

戦後・被爆80年、女性差別撤廃条約批准40年、第4回世界女性会議30年の今年、平和でもジェンダー平等でも日本政治の転換が求められます。

第32回全国大会を成功させましょう。

3、選挙班会・しんぶんタイムを工夫して挑戦

新婦人しんぶんタイムにするか「政党を見極め、推しも語ろう」と1300人が参加しました。政治や政党をもとに伝えないマスメディアやSNSによる様相の変化のなか、しんぶんタイムのいっそうの大切さを確認し、「他のサークルとの違いはこれ」「タイムがあることで会やない」「委員会の意気込みと工夫に学んだ」と、組織分野でも、オンライン交流会議を4回開き、活動推進の力になっています。

夫し、行動につないでいます。音声配信の「ぼとラジ」は「小組でも手を動かしながら聞ける」と好評で、1月から始まった新婦人しんぶん電子版(PDF)も「スマホでタイムも」「文字を拡大できる」と喜ばれ、しんぶん読心会なども活用されています。

2、この間の活動のまとめ

(1) SNSで情報や経験を共有、生の声で動かす力に
班や要求別小組(サークル)までつながって励まし合うLINEなどSNSの活用がすすみました。選択的夫婦別姓や不登校、学校給食のアンケート、高額療養費や介護などの声を集め、これまで「見えなきせられてきた」問題を可視化し、国会質問にも生かされ、一人ひとりの声で政治に迫る力になりました。

(2) 平和やジェンダー、各分野で草の根から行動ひたひた
「戦後・被爆80年・ノーベル平和賞」のタペストリーを持って宣伝・対話し、条約批准署名に弾みがついています。「新婦人と核兵器廃絶」パネル・ポスターも活用して班主催の原爆展、学校や自治体での展示、証言を聞く会、地方議会の意見書採択がすすんでいます。中学校の修学旅行での自衛隊基地体験、勧誘や名簿提供の中止を自治体にも要請しました。沖縄

(3) 「要求いっぱい、会員大募集」と仲間づくりの前進を
第32回全国大会めざす、どの班・支部・都道府県本部も必ず前大会時を超える要求いっぱい、会員大募集」と仲間づくりの前進を

(4) 各地の経験に学び合い、仲間づくりの力に
人気の健康マージャンなど小組での入会、読者から会員に、運動や政治のおしゃべりに共感した入会も増えています。同時に「なかなか増やせない」「班から行動できない」などの悩みが多いなか、「この班をなくしたくない」「高齢化だからこそ、歩いていける所」などと班の再編や新班づくりの経験も生まれています。

をもち、6つのアクション」のなかから、また今までもっていないことにも取り組ましよう。

○身近なところで原爆展を相談し、新婦人の紹介コーナーもつくり、ゲストや読者を誘いましょう。班や小組などで「美と平和」タイムをとり、女性平和基金をあげましよう。

第193回中央委員会開かれる

新日本婦人の会は3月22日、東京都内で第193回中央委員会を開催し、米山会長のあいさつの後、由比ヶ浜事務局長より中央委員会議案が提案され、25人が発言。中央委員会議案と討論のまとめを採択するとともに、11月の第32回全国大会を招集し、大々細則を確認しました。

討論のまとめ 事務局長 由比ヶ浜直子

国家づくりに声をあげていくことです。私たちの生活のすぐ近くで軍事研究開発施設の工事が始まっていること、非核「神戸方式」を踏みしめ、米軍艦の神戸港入港を市が許可、被爆地広島で核抑止は必要と議員が市議会で発言、選択的夫婦別姓を妨害する勢力が民主主義を踏みしめ、県議会でも意見書を強行、なごりに対し、平和の仲間を広げようとして行動していることが各地から発言されました。特に班からの原爆展や公共施設・学校での開催、戦争・被爆体験を伝える活動、フィードバックが、戦後・被爆80年にふさわしくとりこまれています。



事務局長 由比ヶ浜直子

多くの県から発言されたこと、生かす活動として、これが当事者も含め、発言を促しました。選択的夫婦別姓を妨害する勢力が民主主義を踏みしめ、県議会でも意見書を強行、なごりに対し、平和の仲間を広げようとして行動していることが各地から発言されました。特に班からの原爆展や公共施設・学校での開催、戦争・被爆体験を伝える活動、フィードバックが、戦後・被爆80年にふさわしくとりこまれています。

3つめは、しんぶんタイムです。3月4日のオンライン交流会が力を発揮し、新婦人しんぶんタイムを、班でも、次世代のとりこみでも、さらに小組でもと努力し、しんぶんが活動の中心にすすんでいることです。しんぶんはいろいろな「政治の話は嫌」という意見にも、委員会が援助を

第32回全国大会の年 私の要求で声を上げ、必ず前進を

あいさつ

ボロボロです。商品券配布問題は自民党に長年、底知れない腐敗を暴露しています。少数与党だから一部野党を抱き込んで大軍拡・専ら破壊の予算を強行し、延命を図ろうとしているなか、トランプ政権のいらいに日本を



から世界と連携し、「生命を守れ、暮らしたを守れ」「国連憲章と国際法に従え」と声をあげ行動し続けることで、彼らを追い詰める道です。

石破政権も若手世代、すでに

へ「新婦人に入会し、読んでみよ、日常の活動を広げよう」といふ活動を広げよう。議員要請や議会傍聴などで「変えられること」を直接体験しよう。支部や県で報告会をおこなう、次世代チームやしんぶん読心会など、日常の活動につなげよう。

○参院選に向けた「三三交流、私と選挙編」(毎週金曜夜)にゲストを誘い、次世代を会員に迎えよう。

○産産運動をすすめ、米の増産で消費者に適正な価格で安定供給の政策に転換を、自治体には食料自給率向上を求めよう。学校給食は地産・国産・有機の食材で無償で、幅広い関係者とともに改善にとりこましよう。

○医療・介護・年金の改善、保険証発行、原発再稼働に反対し、上下水道や公共交通などのインフラ整備、気候危機や震災

○節目の年にふさわしく、加害と被害の歴史を学び、平和の2署名(軍拡反対憲法、条約批准)を集め、子どもたちへの自衛隊体験や勧誘、基地強化を許さない共同行動をすすめます。

○支部と都道府県本部が目標をもって「要求いっぱい、会員大募集」にとりこみ、毎月前進(だわり)、親子はと賞(別項)達成の班、支部を次つぎつぎとつなげよう。班の実情や「困った」をかんて援助、進んだ経験を学び合い、次世代会員を委員に迎えよう。

○選挙班会・タイムの本格的推進、援助をつよめることにも、政党その候補者を選挙別選挙

開催などを求めましよう。平和の2署名(軍拡反対憲法、条約批准)を集め、子どもたちへの自衛隊体験や勧誘、基地強化を許さない共同行動をすすめます。

○「班の原爆展」「班の仲間づくり」をどうしてやるか、中央主催の

第32回全国大会の招集について
規約第六条(二)にもつき、新日本婦人の会第32回全国大会を2025年11月2日(日)、3日(祝・月)に東京都内で開催します。



発言に大きな拍手

戦争国家づくりに声をあげ、行動

選挙と仲間ふやして自民党政治を終わらせ、第32回全国大会を、前大会を超えて迎えることで、新たな出会いを広げ、全国大会を成功させよう。中央委員会を力に、この3月なんとして増勢させることを決意し、討論のまとめとて意見にも、委員会が援助を